

第18回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会 (食品流通関係者)

日時：令和3年2月26日（金）10:00～11:00

場所：オンライン開催

参加者：別紙参照

【先方コメント概要】

- ・ みどりの食料システム戦略における、「ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立」や「サプライチェーン全体を貫く基盤技術の確立と連携」は、我々が直面している課題そのものである。
- ・ 数値目標については、サプライチェーン全体をつなぐ物流をいかに効率化できるか、という観点で設定すべき。
- ・ 生活必需品の流通という社会的インフラを担っている卸売業界は、以前は物流分野においても競争領域として各社でサービスレベルを競ってきたが、最近では全体として物流を破綻させないために協調領域として、効率化や最適化を進めていく流れとなっている。
- ・ 卸売事業者は多数のメーカーや小売業者と取引を行うため、物流やデータ処理の負担が非常に大きい。データ連携のための標準化と基盤構築が必要であり、実現に向けて取り組んでいるが、難しい。
- ・ 製造業、卸売業、小売業がそれぞれ最適化を図ってきたため、サプライチェーン全体で見ると最適化されていない部分がある。サプライチェーン全体でのデータ連携に向けて、業界間でも調整しているが、既存の仕組みを変えるのは容易ではない。行政が関与することによって透明性や公平性が生まれ、取組の推進力となるのではないか。

(以上)

(別紙)

第 18 回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会
(食品流通関係者)
出席者一覧

一般社団法人 日本加工食品卸協会
ときおか こうへい 専務理事
時岡 肯平